

二〇一七年六月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

あたかも、母が己の独り子を命を賭けても護るように、そのように一切の生きとし生けるものどもに対しても、無量の慈しみの「こころを起すべし。」 『スッタニパータ』

いよいよ六月に入り、もうすぐ梅雨の時期がやってきます。日本ではだいたい一ヶ月ほど続きますが、お釈迦様のおられたインドでは、雨期が三、四ヶ月も続くそうです。お釈迦様は、雨期に芽生える草木を枯らしたり、繁殖する虫に対して殺生（せつしよう）することを防ぐため、外での修行を禁じて一カ所に定住するよう勧められました。

今月の言葉は、そんなお釈迦様の言葉です。母親がわが子を命がけで護るように、一切の動植物のいのちに対しても、はかりしれない慈しみのこころを持つように言われています。私たちの日常で考えてみると、ついつい虫を殺したり、花を枯らしてしまったりという経験があると思います。お釈迦様のように、全ての生き物に慈しみのこころを持つことは簡単なことではないかもしれませんが、少しでも意識して思いやるこころがあれば、この無量の慈しみのこころを起すことはできるのではないのでしょうか。

今月の聖語

もし行を学ばんと欲^{おそ}わば、必ず有縁^{うえん}の法^よに藉^{せき}れ

『教行信証』

もし自分が修める行を学ぼうと思うなら、必ず自分にふさわしい教え（方法）によるべきであるという意味です。「有縁」とは、仏や菩薩に出会い教えを聞くことです。みなさんの学校生活で考えてみれば、各教科の先生に出会い教えを学ぶことも「有縁」と言えます。

みなさんは学校の勉強をはじめ、自分の夢を実現させるために必要な勉強に励んでいることでしょう。そして、それらが自分の思うようにいかないと、「このやり方ではないのだからか」と不安になったり、「どうしたらうまくいくのか」と悩むときがあると思います。自分が思うような結果を達成させるには、先生からご指導をいただくとともに、そこから自分に合った方法を見つけるしかありません。その方法が見つければ、必ず思うような結果になるはずですから、頑張ってみてください。